

# 総合的な学習の時間

丸山 賢悟  
小原 広士

探究課題の解決を通して、

生活や社会と自己との関わりを深めるチャレンジ学習

## I 総合的な学習の時間研究の方向性

### 1 主題設定の理由

学習指導要領では、探究的な見方・考え方を働かせることが目標の冒頭に置かれており、探究的な学習の過程が総合的な学習の時間（以下、総合）の本質であることを示しています。総合における探究的な学習とは、「問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく」ことであり、このような学習を通して、「よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」を育成することが求められています。

本校のこれまでの研究では、学習展開や探究のプロセスの充実・改善、思考ツールの活用等に取り組んできました。その成果として、児童が主体的・協働的に問題解決を進められたことが挙げられます。全国学力・学習状況調査（令和元年度）の「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」の項目では、8割以上の児童が肯定的な回答をしており、総合における学習の進め方が定着していることもうかがえます。

一方、児童が自分の生き方と探究課題とを関連付けて考えることについては課題があると考えます。生活や社会との関わりにおいて自分は何をすべきかを考えたり、学習活動を通して自分の考えを深めたり、自分の人生や将来について考えたりすることは、総合で育成する資質・能力につながるものであるとともに、実社会・実生活においても重要であると考えました。

そこで、研究主題を「探究課題の解決を通して、生活や社会と自己との関わりを深めるチャレンジ学習」と設定しました。児童の実態に即した探究課題や単元を構想し、探究的な学習の過程を一層重視することで、児童が、自身を取り巻く生活や社会との関わりを見だし、生き方を問い続けられるような学習を目指しました。

### 2 目指す児童の姿とその具体

**身近な人々や社会，自然と自己とのつながりを考え，自己の生き方を問い続ける児童**

「身近な人々や社会，自然と自己とのつながりを考え」とは、身近な人々や社会，自然と自己とがどのように関わっているかを常に考え、それらの関係性を見いだすことです。

「自己の生き方を問い続ける」とは、身近な人々や社会，自然との関わりにおいて自分は何をすべきかを考えたり、学習活動を通して自分の考えを深めたり、自分の人生や将来について考えたりする「自己の生き方を考える」中で、新たな課題を生み出していくことです。

## Ⅱ 研究内容の具体

### 1 自己の生き方を問い続ける単元構成の改善

「自己の生き方を問い続ける」ためには、児童が、身近な人々や社会、自然との関わりにおいて、自分は何をすべきかを考えることが重要です。そのためには、学習活動を通して自分の考えを深めたり、自分の人生や将来について考えたりする中で、新たな課題を生み出せる単元構成にする必要があります。そこで、「探究の型」を設定し、教育課程に位置付く単元の見直しを行いました。また、新たな単元開発も行いました。

#### 《三つの課題毎に位置付けた「探究の型」》

『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』には、三つの課題（①横断的・総合的な課題、②地域や学校の特色に応じた課題、③児童の興味・関心に基づく課題）が示されています（pp.73-75）。それぞれの課題に応じて、以下の「探究の型」を設定しました。また、「探究の型」毎に単元のゴールの具体例を示しました。

【探究の型】	【三つの課題】	【単元のゴール（具体例）】
A：すべきことの実践型	① 横断的・総合的な課題	石狩川の水質や汚れてしまう要因を調査し、自分たちができることを考えて実践しよう
B：魅力やよさの発信型	② 地域や学校の特色に応じた課題	「常磐公園のすごいところ」や「100年後も愛され続ける公園の姿」を旭川市民に発信しよう
C：挑戦したいことの実践型	③ 児童の興味・関心に基づく課題	「自分史」を作り、「将来の夢交流会」をしよう

### 2 自己の生き方を問い続ける「課題の設定」

児童が「自己の生き方を問い続ける」ためには、1次での学習材（人々や社会、自然）との出会いの場が重要です。また、2次以降では、これまでの学習を振り返り、今後の学習の方向性を決めたり、計画していた活動を修正したりすることが大切です。そこで「体験活動による課題意識の醸成」と「児童の振り返りに基づいた課題の方向付け」についての研究を進めました。

#### 《「課題の設定」に向けた手立て》

##### ○体験活動による課題意識の醸成（1次）

- ・学習材と直接関わる場を複数回設定する。
- ・「学習材の新しい側面」を見付ける場面を設定する。
- ・自分の考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「あこがれ」や「可能性」を感じる場面を設定する。

##### ○児童の振り返りに基づいた課題の方向付け（2次以降）

- ・児童が振り返りに記述した「前次の成果や課題」等を基に今後の方向性を決める。
- ・単元のゴールや終末で目指す姿との「隔たり」を明らかにし、課題の設定につなげる。
- ・現時点での児童の思いや願いを交流し、計画していた活動を修正する。

### 3 自己の生き方を問い続ける児童の姿の評価方法

児童の「自己の生き方を問い続ける姿」を評価したり、指導に生かしたりするために「振り返り」、「思考ツール」、「自己評価」を活用した評価方法について研究を進めました。

#### 《評価方法の内容》

##### ○振り返り（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）

- ・本時の目標に正対する内容を基本的な振り返りの視点とし、毎時間行う。
- ・振り返りの記述から児童の学習状況を把握し、指導に生かす。

##### ○思考ツール「イメージマップ」（「知識・技能」）

- ・各次の「まとめ・表現」の場面で実施する。
- ・イメージマップの記述から、児童が学習活動を通して獲得した知識を把握し、指導に生かす。

##### ○自己評価（「主体的に学習に取り組む態度」）

- ・評価規準を設定している次の「まとめ・表現」の場面でアンケートフォームを使って実施する。

#### ＜3年次研究の重点＞

- 自己の生き方を問い続ける単元構成の改善 ○自己の生き方を問い続ける児童の姿の評価方法

### Ⅲ 研究実践

## 4年生実践 『常磐公園調査隊』

実践のテーマ：児童の振り返りを交流することを通して、

今後の方向性を明らかにする学習

### 1 研究授業のねらい

本単元のねらいは、常磐公園を調査し旭川市民に発信することを通して、「常磐公園のよさや問題状況」について理解し、常磐公園の発展を願って自分にできることを考え、町づくりに積極的に関わることができるようにすることです。

本学級の児童は、自分たちが住んでいる旭川市のよさについて知りたいという思いや、旭川市のよさを広く伝えていきたいという意識を強くもっています。昨年度の総合的な学習の時間で、旭川市の自慢動画を制作し全国に発信したことが、その理由として挙げられます。昨年度、社会科『旭川市のうつりかわり』を学習した際、常磐公園は「旭川市で初めて開設（1916年）された公園」と知り、「常磐公園について調べたい」という思いを強く抱きました。

常磐公園は、市内中心部に位置し文化芸術の拠点となっています。また、「日本の都市公園100選」（1989年）、「旭川八景」（1997年）に選ばれた公園でもあります。そこで、「常磐公園を調査し、常磐公園のよさを発信したり、よりよくなるためのアイデアを考えたりする」という目的に向かって学ぶことを通して、旭川市への愛着をより一層深め、旭川市のためにできることを考え、積極的に関わろうとする態度を育むことができると捉え、教材化しました。

### 2 単元の指導計画（95時間扱い）

附属旭川小学校「常磐公園調査隊 ～旭川市民に愛され続ける常磐公園を目指して～」単元計画【第4学年：70時間+25時間（国語と関連）95時間】				
探究課題：地域資源の魅力を発信し地域を支える人々（町づくり 伝統文化）				
常磐公園について調査したことを発信したり、これからも愛され続ける常磐公園の姿を提案したりすることを通して、地域の伝統や文化は人々によって受け継がれていることを理解するとともに、旭川市民に常磐公園が愛され続けることを考え、自分にできることを見つけて行動しようとする。				
単元	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】	
単元	①常磐公園の歴史や、常磐公園にまつわる人々（現在、過去）の思いに気付くことと、地域の伝統や文化は人々によって受け継がれていることを理解する。 ②常磐公園の現状や変化、特徴を捉えられたり、手探りや情報収集から、自分たちで調査し、「常磐公園のよさや問題状況」について理解し、常磐公園の発展を願って自分にできることを考え、町づくりに積極的に関わることができるようにすること。	①調査活動を通して、自分たちが住んでいる旭川市のよさについて知りたいという思いや、旭川市のよさを広く伝えていきたいという意識を強くもっている。 ②調査活動を通して、自分たちが住んでいる旭川市のよさについて知りたいという思いや、旭川市のよさを広く伝えていきたいという意識を強くもっている。 ③調査活動を通して、自分たちが住んでいる旭川市のよさについて知りたいという思いや、旭川市のよさを広く伝えていきたいという意識を強くもっている。	①具体的な学習に取り組む態度 ②自分たちが住んでいる旭川市のよさについて知りたいという思いや、旭川市のよさを広く伝えていきたいという意識を強くもっている。 ③調査活動を通して、自分たちが住んでいる旭川市のよさについて知りたいという思いや、旭川市のよさを広く伝えていきたいという意識を強くもっている。	
単元のゴール：「常磐公園のすていところ」や「100年後も愛され続ける公園の姿」を旭川市民に発信しよう！				
1次	①常磐公園の「すていところ」を見付けよう！【めあて（1次）】→「常磐公園で学習を進めるべきかどうかを話し合う」	【情報の収集】(6-7月) ○常磐公園調査する(1回目) ○常磐公園にはすていところがあったが、まだ進めるかどうか決まれない ○常磐公園調査する(2回目) ※旭川市常磐公園コンベンション委員会 ○常磐公園は旭川市の誇りであり、市民にとって自慢できる場所だと感じた ○保護者にアンケート調査を行う ※旭川市は常磐公園をあまり利用していない。常磐公園の歴史について知っている人も少ない	【家とめ・整理】(7月) ○1次の学習を振り返り、新たな課題を設定する ○今年も常磐公園についての学習を進めよう ○常磐公園のすていところを見よう ○イメージマップで2次で得た知識を整理する	【振り返り-加の更新】 常磐公園には歴史が豊富、自然が豊か、自然もまた、旭川市民に愛され続けている公園であることがわかった。また、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。
2次	②常磐公園の「すていところ」を探しよう！【めあて（2次）】→「常磐公園のすていところを探よう」	【情報の収集】(8-9月) ○インターネットで常磐公園の情報を収集する ○常磐公園調査する(3回目) ○調査し「すてい」(情報の整理)を解決するために必要な情報をGTAに集める。 ※GTA(旭川市役所、彫刻美術館職員)	【家とめ・整理】(10月) ○調査した内容を一人一人が新聞にまとめ、交流する ○新聞【新聞を作ろう】(教育出版4年上)と関連(含む) ○イメージマップで2次で得た知識を整理する	【振り返り-加の更新】 調査を通して、自分たちが住んでいる旭川市のよさについて知りたいという思いや、旭川市のよさを広く伝えていきたいという意識を強くもっている。また、常磐公園のすていところを探しよう。そして、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。
3次	③自分たちが見つけた「すていところ」を発信するための準備をしよう！【めあて（3次）】→「自分たちが調べた「常磐公園のすていところ」を動画と新聞で発信するために、準備を進めよう」	【情報の収集】(10月) ○取材先を調べる ○取材先を調べる(旭川市役所、彫刻美術館、常磐公園のHP)関係者等 ※新聞【いろいろな手段を書こう】(教育出版4年上)と関連(含む) ○常磐公園調査する(4回目、5回目) ○「常磐公園のすていところ」について情報をGTAに集める。 ※GTA(旭川市役所、彫刻美術館職員) ○旭川市役所から動画制作のポイントやテクニックを学ぶ	【家とめ・整理】(10月) ○動画と新聞のコンテントづくりを行う ○3次の学習を振り返る ○イメージマップで2次で得た知識を整理する	【振り返り-加の更新】 市役所が常磐公園に興味を持ち、常磐公園に関心している市民に近づき、常磐公園のすていところを探しよう。そして、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。
4次	④常磐公園の「すていところ」を発表しよう！【めあて（4次）】→「動画と新聞を完成させよう」	【情報の収集】(10月-11月-12月) ○常磐公園の動画を制作する ○旭川市役所から動画制作のポイントを学ぶ ○旭川市役所から動画制作のポイントを学ぶ	【家とめ・整理】(12月) ○動画と新聞を完成させる。HPで公開する ※新聞【いろいろな手段を書こう】(教育出版4年上)と関連(含む) ○イメージマップを用いて4次で得た知識を整理する ○旭川市役所職員から依頼を受け、専らゴールを設定する	【振り返り-加の更新】 動画や新聞制作を通して、常磐公園の魅力を伝えたいという思いや、旭川市民に愛され続けている公園であることがわかった。また、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。
5次	⑤市民に愛される常磐公園の姿を提案しよう！【めあて（5次）】→「100年後も旭川市民に愛され続ける常磐公園を目指して、今の公園をよりよくなるためのアイデアや企画を考え提案しよう」	【情報の収集】(12月) ○調査活動のあとに学習計画を立てる ○常磐公園のすていところを探しよう ○常磐公園のすていところを探しよう ○常磐公園のすていところを探しよう	【家とめ・整理】(12月) ○常磐公園をよりよくなるためのアイデアや企画を考え、旭川市民に発信する	【振り返り-加の更新】 全ての学習を終え、自分たちが住んでいる旭川市のよさについて知りたいという思いや、旭川市のよさを広く伝えていきたいという意識を強くもっている。また、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。
【単元の振り返り(期待するもの更新)】 「常磐公園」は歴史が豊富、自然もまた、旭川市民に愛され続けている公園であることがわかった。また、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。(1次：発見活動) 「常磐公園」は歴史が豊富、自然もまた、旭川市民に愛され続けている公園であることがわかった。また、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。(2次：発見活動) 「常磐公園」は歴史が豊富、自然もまた、旭川市民に愛され続けている公園であることがわかった。また、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。(3次：発見活動) 「常磐公園」は歴史が豊富、自然もまた、旭川市民に愛され続けている公園であることがわかった。また、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。(4次：発見活動) 「常磐公園」は歴史が豊富、自然もまた、旭川市民に愛され続けている公園であることがわかった。また、旭川市民も知らず知らずのうちに愛している公園であることがわかった。旭川市の100年の歴史にこの公園が関わっていることが、その歴史を振り返る旭川市民に伝えたい。そして、もっと常磐公園を利用してみたい。(5次：発見活動)				

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

3次の学習の方向性を明らかにするために、2次の成果や課題を進んで伝えたり、どのような方法で「常磐公園のすごいところ」を発信すべきかを粘り強く考えたりしながら、話し合いに参加することができる。【主体的に学習に取り組む態度】

#### (2) 本時の展開（全体：95時間扱いの35時間目、3次（提案過程）：18時間扱いの1時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">これまでの学習を振り返り、これから何をすべきか考えよう。</p> <p>2 2次「追究過程」の学習を振り返る。 《成果（分かったこと、できたことなど）》 ・自分の問い（常磐公園の自然について、施設について、彫刻について、歴史について）を解決することができた。 ・分かったことを、新聞にまとめることができた。 《課題（まだ分からないこと、できなかったことなど）》 ・解決できていない自分の問いがある。 ・市民に発信できるような新聞を書けなかった。 ・これからどのような方法で、「常磐公園のすごいところ」を発信すべきか決まっていない。</p> <p>3 どのような方法で「常磐公園のすごいところ」を発信するか話し合う。 ・自分たちが調べた「常磐公園のすごいところ」を動画にして発信する。 ・同じテーマで調べた人たちがグループになり、動画を制作する。</p> <p>4 3次「提案過程」のめあてを設定する。</p>	<p>◇自己の生き方を問い続ける「課題の設定」 <b>研究視点2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「常磐公園のすごいところ」を発信するための方法を決められなかったことが、単元のゴールとの「隔たり」であることを確認する。</li> <li>前時に児童が記述した「これからの学習に向けて」の中で、明確な考えを明記していた児童を意図的に指名し、話し合いの内容や方向性を調整する。</li> </ul> <p>※「新聞を書けなかった」という発言が出た場合、3次はグループに分かれて新聞制作と動画制作になる可能性もある。この場合、「一人の力では市民に発信する新聞を書けなかった」も「隔たり」となる。児童の思いや願いに沿って、単元の流れを柔軟に描き直す。</p>
<p>自分たちが調べた「常磐公園のすごいところ」を動画で発信するために、みんなで力を合わせて準備をしよう。</p>	
<p>5 学習を振り返る。 ・これからの学習で、自分たちは何をすべきかを進んで考えることができた（主体性）。 ・友達の考えを参考にしながら、これからの学習の方向性を考えることができた（協働性）。</p> <p>6 次時の確認をする。 ・みんなで話し合っ、新しいゴールに向けての学習計画を設定する。</p>	<p>◇探究課題と自己との関わりを捉える振り返り <b>研究視点3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「主体性」「協働性」の視点で振り返りに取り組ませる。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【主体的に学習に取り組む態度】 2次の成果や課題を進んで伝えたり、どのような方法で「常磐公園のすごいところ」を発信すべきかを粘り強く考えたりしながら、話し合いに参加している。 (振り返り・行動観察)</p>

#### ◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

○3次の学習の方向性を明らかにするために、2次の成果や課題を進んで伝えたり、どのような方法で「常磐公園のすごいところ」を発信すべきかを粘り強く考えたりしながら、話し合いに参加する姿



## 4 授業の実際

### 自己の生き方を問い続ける単元構成の改善

本単元は、今年度新たに開発した単元です。学習材は常磐公園です。学習材である常磐公園を分析した結果、『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』に示されている三つの課題の中の「②地域や学校の特色に応じた課題」として学習を進めるのにふさわしいと判断しました。

「②地域や学校の特色に応じた課題」は、探究の型「B：魅力やよさの発信型」に該当します。「B：魅力やよさの発信型」は、単元の冒頭で児童に地域課題と出合わせ、「何とかしなければならない」と危機感をもたせるところから活動をスタートする必要があります。また、児童に「自分たちが調べた魅力やよさを発信したい」という思いをもたせることも重要です。そこで、1次（発見過程）では、右の学習活動を設定しました。また、以下の単元構成で学習を進めました。

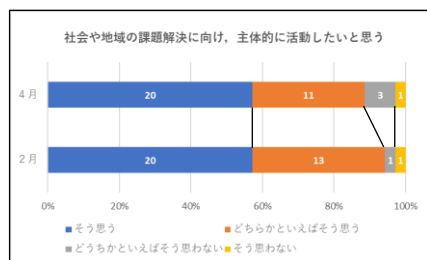
「1次：発見過程」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回の調査活動を通して、常磐公園の特に「すごいところ」は、旭川市の100年の歴史が集まっているところであり、「旭川市の誇り」とも言える場所だと気付く。</li> <li>・保護者へのアンケート結果から、常磐公園の歴史を「すごいところ」と感じていない人が多いことや、常磐公園を利用している人が少ないことに気付く。</li> </ul>

【危機感や思いをもたせるために設定した学習活動】

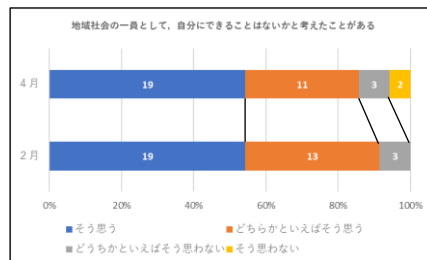
探究の過程	主な学習活動
1次：発見過程	常磐公園調査を数回行い、常磐公園をテーマに学習を進めるかどうかを話し合う。
2次：追究過程	常磐公園の「自然」「施設」「彫刻」「事実」の中から個人で追究するテーマを設定し、調査する。
3次：提案過程	調査活動を通して明らかになった「常磐公園のすごいところ」を発信するための方法を考え、準備を進める。
4次：熟成過程	「常磐公園のすごいところ」を動画と新聞で旭川市民に発信する。
5次：表現過程	「常磐公園をよりよくするためのアイデア」を考え、旭川市長に発表する。

#### 【「常磐公園調査隊」単元構成】

以下に、単元の最後に実施した「児童質問項目」の結果とA児とB児の振り返り記述を示します。なお、「児童質問項目」は日本生活科・総合的学習教育学会誌第22号に掲載されたものを利用しました。



【質問項目の結果①】



【質問項目の結果②】

うえてほしいと思った。①勉強をすることでおぼえたことを、まだいつでも頭に入れて常磐公園を自分がすごいところとして、市民などといっしょに旭川の中心、人のふれあいの場所、旭川の宝の一つとして、利用していきたい。

【単元後のA児の振り返り 一部抜粋】

よかったなと思っています。①これから、ときわ公園はいつがれていくと思うので、まず自分たちがときわ公園について、もっとすばらしさをみつけたいと思いました。

【単元後のB児の振り返り 一部抜粋】

本学級の児童は、前年度に、「動画を配信して旭川市を元気にする」という目的に向かって学習活動を進め、「旭川市の自慢動画」を6本完成させています。ですから、本単元に入る前から、地域社会の課題解決に向け、主体的に活動しようと意識したり、地域社会の一員として、自分にできることはないかと考えたりする児童が多くいました。上記の「児童質問項目」の結果に大きな変化は見られませんでした。しかし、どちらの項目も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童が9割以上いたことと、A児、B児のように、単元の最後に実施した振り返りに「これからも常磐公園を利用したい」「これからも常磐公園のすばらしさを見付けたい」と記述した児童が約8割いたことから、探究課題に適した探究の型を設定し、教育課程に位置付く単元の学習活動を見直したり、新たな単元開発を行ったりすることは、自己の生き方を問い続ける児童を育成するための手立てとして概ね有効であったと判断しました。

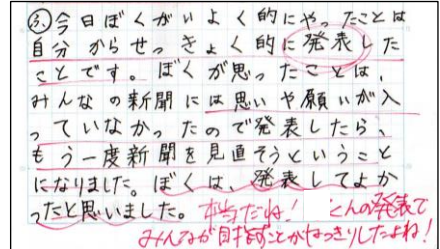
本単元では、5次に「常磐公園をよりよくするためのアイデアを考え、旭川市長に発表する」活動を設定しました。この学習活動で児童は、収集した資料や自分たちで作成した資料を活用して、自分たちが考える常磐公園をよりよくするためのアイデアや企画を市長に発表しました。また、発表を構成する際は、事実と感想、意見を区別して原稿を考えました。しかし、上記の学習活動は『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編「A 話すこと・聞くこと」第5学年及び第6学年』に示されている内容でした。ですから、学習活動に難しさを感じていた児童がいました。これらのことから、今後、新たに単元を開発する際は、児童の発達段階に適した学習活動を単元に位置付ける必要があることが分かりました。また、教育課程に位置付く単元も、発達段階に適した学習活動が位置付いているかを見直す必要があることも明らかになりました。

## 自己の生き方を問い続ける児童の姿の評価方法

『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』では、「主体的に学習に取り組む態度」の観点として「自己理解」「他者理解」「主体性」「協働性」「将来展望」「社会参画」の6つを示しています。本研究では、国際機関OECDの「社会情動スキル」の理論を基にして、上記の中から、「他者理解」「主体性」「協働性」の振り返りの視点を設定しました。

「他者理解」	「主体性」	「協働性」
・友達の考えでよいと思ったことや参考になったこと	・意欲的に取り組んだこと ・粘り強く取り組んだこと	・友達と協力して取り組んだこと

本時の目標で設定した資質・能力は「主体的に学習に取り組む態度」の「主体性」と「協働性」でした。評価規準は「2次の成果や課題を進んで伝えたり、どのような方法で『常磐公園のすごいところ』を発信すべきかを粘り強く考えたりしながら、話合いに参加している。」でした。主たる評価資料として、児童が授業の終末に上記の視点で書いた振り返りの記述内容を活用しました。



【授業後のC児の振り返り 一部抜粋】

C児の振り返りからは、本時の学習に意欲的に取り組んだと自覚していることが読み取れます。また、本時の全体交流の場面では、「これから制作する動画や新聞に、常磐公園に関わった昔の人たちの思いを入れるべきだ」という考えを述べたり、友達の考えをうなずきながら真剣に聞いたりしていました。このことから、C児は「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

一方、振り返りの記述から、「努力を要する」状況（C）と判断した児童が3名いました。次時の目標も本時と同様に「主体的に学習に取り組む態度」の「主体性」と「協働性」で設定していましたが、次時の「新しいゴールに向けての学習計画を考える」場面では、3名の児童の支援を行いました。

これらのことから、児童の「自己の生き方を問い続ける姿」を評価したり、指導に生かしたりするために「振り返り」を活用することは概ね有効であったと判断しました。しかし、3年次研究では「主体的に学習に取り組む態度」の「他者理解」「主体性」「協働性」の3観点しか振り返りの視点を設定することができませんでした。今後は、残りの「自己理解」「将来展望」「社会参画」の3観点を設定する必要があります。また、視点の妥当性についても検討する必要があります。

## IV 3年次の研究の成果と課題

3年次研究では、「自己の生き方を問い続ける単元構成の改善」と「自己の生き方を問い続ける児童の姿の評価方法」を重点として研究を進めてきました。

### 1 研究の成果

- 探究課題に適した探究の型を設定し、それを基に、教育課程に位置付く単元の学習活動を見直したり、新たな単元開発を行ったりしたことは、児童が自己の生き方を考える中で、新たな課題を生み出していくことにつながりました。
- これまでの学習を振り返り、今後の学習の方向性を決めたり、計画していた活動を修正したりする「課題の設定」場面を位置付けることは、児童が自己の生き方を問い続けるために有効であることが明らかになりました。
- 本時の目標に正対する振り返りの視点を設定し、毎時間、その視点に基づいて児童に振り返りをさせることによって、指導者は「自己の生き方を問い続ける児童の姿」を評価したり、指導に生かしたりすることができました。

### 2 今後の課題

- 教育課程に位置付く単元の学習活動が、発達段階に適しているかを見直す必要があります。また、単元を開発する際も、学年に適した学習活動を位置付ける必要があります。
- 「主体的に取り組む態度」の3観点（「自己理解」「将来展望」「社会参画」）を振り返りの視点に設定したり、振り返りの視点の妥当性を検討したりする必要があります。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 総合編 文部科学省 東洋館出版社 平成30年2月
- 小学校学習指導要領解説 国語編 文部科学省 東洋館出版社 平成30年2月
- 日本生活科・総合的な学習教育学会「せいかつ&そうごう」 日本生活科・総合的な学習教育学会 平成27年2月
- 学習評価 田村学 東洋館出版社 令和3年5月
- 令和時代の総合的な学習の時間入門 松村英治 東洋館出版社 令和3年7月